

# 1月号 子どもの才能の扉をひらくモンテッソーリ教育

## モンテッソーリ教育は タテ割り保育

モンテッソーリ教育は、タテ割りクラスで構成されています。1つのクラスに年少(3歳児)から年長(5歳児)までが、同じ教室で一緒に過ごします。これには良いところがたくさんあります。さまざまな年齢の子どもたちが集まっていますから、みんな身体的にも能力的にも違いがあります。個々の違いがあるのは自然のこと。最初はできなくてもお兄さんお姉さんたちの姿を見て学びながら、自然に自分の意志でしたいことを選び、お仕事に取り組むようになります。試行錯誤しながら、どうしたらできるかを考え、集中して取り組む力が身についていくのです。



クラスでは、4.5歳児が3歳児のお手伝いをしている場面をよく見かけます。「お手伝い」と言っても、なんでも一緒にするというものではありません。隣に座り手も出さず、言葉もかけずに、小さい子を見守っています。小さい子ができなくて困っているところだけ、そっと手を貸します。そして、お手伝いが必要なくなったら、静かにその場を離れます。誰かに教わるわけでもなく、自分たちで判断して、そのような関わり方をするのです。

相手の状況を見て、自分の頭で考え、必要なところだけをお手伝いする。この一連の動きを通して、子どもは相手を思いやる心が育ちます。お手伝いをしてもらった子は、今度はお手伝いをしてあげる側へと成長します。こうして、子どもたちは、いつながりの連鎖を自然と学んでいきます。子ども同士が学び、また保育士もクラスに数人いることで、子ども一人一人のペースにきめ細かく対応し、先生対子どもという関係ではなく、子どもの援助者として、分からないところ、困っている部分だけをポイント的に「やって見せる」、必要な時だけ支えサポートすることで、最後までやり遂げたという達成感が、子どもの心を満たしていくのです。